

100点満点は難しい。 質か量か…方針を明確にして、 割り切ることがコツ。

インターネットによる資料情報公開の考え方

情報を公開できない理由

ある美術館のアンケート結果では、「作品情報をインターネットで検索できるとよいと思いませんか?」という質問に対し、すべての人が「はい」と答えています。もちろん、来館者はモニターで見て満足したいと思っているわけではないでしょう。彼らは、資料情報をいつでも入手できる環境を欲していると理解すべきです。

しかし、弊社が収蔵品管理システムをお届けした館のうち、データベースをインターネットで公開しているケースは、半数にさえ遠く及びません。なぜでしょうか。大きく分けて、次の2つの理由が考えられます。

- A) 著作権の関係で公開できない
- B) 公開してよいレベルまで情報が仕上がっておらず、仕上げる時間もない

情報の中身の問題

理由のA)は、権利関係の問題なので、博物館の館内だけで解決できることではありません。逆に、B)は館内事情によるものですが、こちらもカンタンに乗り越えられるようなものではなさそうです。

では、「公開してよいレベル」とは、どんな状態を指すのでしょうか。以下の4点を満たすことと考えがちですが、何千・何万点、場合によってはそれ以上にのぼる資料情報を完璧にしようとするれば、それこそ何十年がかりの事業になってしまうでしょう。

1. 情報に間違いがない
2. 公開して問題になる情報がない
3. 画像がある
4. 解説がある

1. と2. は、情報を公開することが何らかの問題を引き起こす可能性があるため、必須の点検作業となります。これだけでも、点数によってはかなりの作業量。1年以上かかるケースも少なくないでしょう。

3. と4. は、利用者側から求められると思われるものです。資料名だけでも「情報公開義務」は果たすことができますが、一般人が見ても意味が分からないリストとなりがちなので、画像や解説を付けてわかりやすくしましょう、ということですね。

情報公開義務を果たすために可能な限りすべての資料について、正しい情報を、画像や解説を付けた状態で…と考えると、毎年人員を削減され、一人何役も果たしている博物館職員にとって、インターネット

上での資料情報の公開は、気の遠くなるような作業を強いられることになってしまいます。そこで、「公開」に対する発想を変えてみてはいかがでしょうか。

発想の転換

画像や解説が付けられた状態で、数万点規模に及ぶ資料データを網羅的に公開している博物館は、極めて少ないのが現状です。

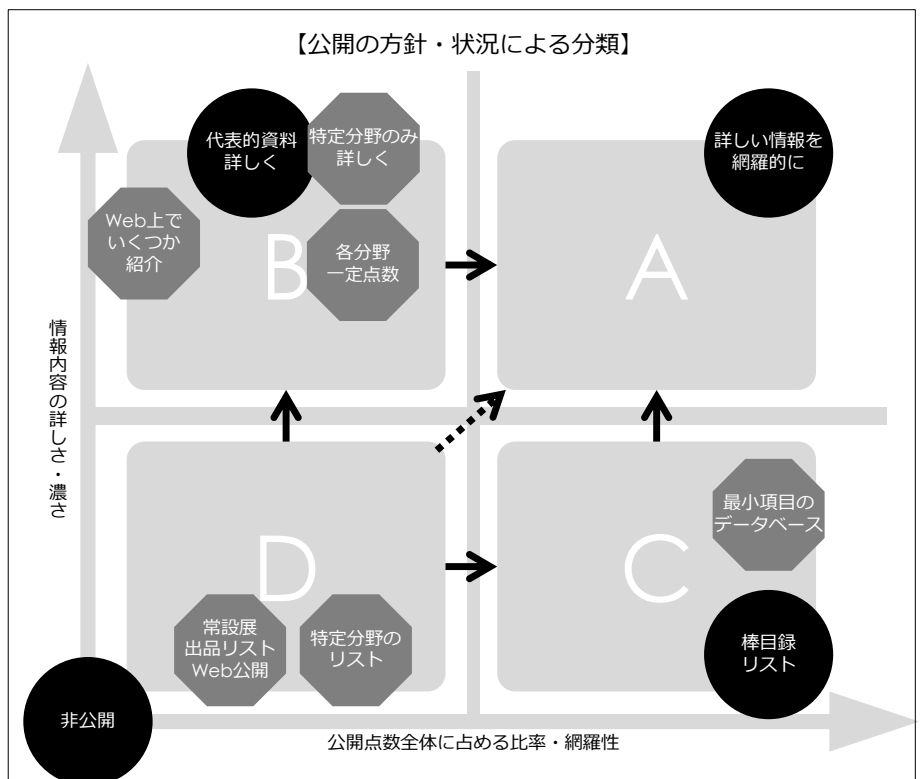
そこで、下の図をご覧ください。縦軸に情報の詳しさを、横軸に点数、網羅性を示しています。上に行くほど画像や解説が充実し、右に行くほど更改点数が多くなります。

この図の「A」、すなわち充実した情報を大量に公開することをいきなり目指すと、途中で挫折することになりかねません。理想的な公開ではありますが、実現している館がほとんどないことから分かる通り、現実的には至難の業。

公開を実現した館は、実は、まず「B」または「C」を実践するケースが多いのです。

「B」は、情報が整った資料だけ、数が少なくても公開しようという考え方です。

「C」は単純にリストの公開で、昔はExcelで作った表をそのままホームページに掲載する例もよく見られました。まずはこの2つを検討するのが現実的でしょう。



情報公開の目的が「資料の面白さや魅力のアピール」であれば、公開方法は必然的に「B」となります。「どんな資料を持っているか」という情報の開示が必要なのであれば「C」を選択するのが近道ということになります。

さらに、公開点数やデータの項目数を絞ってしまえば、労力も何十分の一、何百分の一に抑えることができます。「B」を選んだ場合は図録作成時の入稿データを流用できるケースもあるでしょうし、「C」なら館内の台帳や紀要、報告書類のリストデータを活用できることもあるでしょう。

また、効果についても、「A」に遠く及ばないわけではありません。特に「B」は、新しい資料が増えるたびにWebやソーシャルメディアでアナウンスするなど、ネット上で館に惹きつける手段にも使えます。また、「B」なら、最初から一部の分野のデジタルアーカイブとして使うことも可能。図書館の貴重資料では、実際にこうした手法での公開例もあります。

また、「A」の代わりに「B」 or 「C」でなく、「B」 and 「C」という公開を実現しているケースもあります。目録情報の公開で公共機関としての情報公開義務を果たしつつ、点数は限定的ながら画像や解説の付いたデータベースも用意する、というパターンです。

手元にあるモノの再利用も視野に入れ、「B」「C」をどう進めるか計画する

「A」を諦めて「B」「C」の2者択一とした時点で、データベースは質か量か、どちらかに偏ることになります。そこで、閲覧する人をプロファイリングするとよいでしょう。一般の来館者、子供・教育関係者、大学・研究者など、閲覧する人のタイプによって、「B」か「C」かを選ぶのです。

点数は少なくとも充実した情報を公開したい場合は、公開用データをゼロから作るか、収蔵品展の図録など手元にあるデータを元に情報を整えるかを決定します。できれば、後者のほうが作業が早いでしょうね。

目録情報を公開するのであれば、館内にあるリストをかき集めて精査する作業に専念。項目は最低限でよいので、とにかく「自館に何があるのか」という網羅性を重視したリストを作ることから始めます。

「非公開」という状況から抜け出すこと。これが、「現代の博物館のあり方」の第一歩ではないでしょうか。

【「B」「C」型公開の事例】

東北歴史博物館様



Bに相当する、画像と解説付きデータベース。

Cに相当する目録データベース。データが揃った分野から公開。



要注目

手間のかかる「A」は回避しつつ、質と量を両立した、バランスのよい公開法。

福山市中央図書館様



図書館では、テーマを絞ったデジタルアーカイブが公開されています。(Bに相当)

福山市の広報誌のデジタルアーカイブ

クラウド型収蔵品管理システム

I.B.MUSEUM SaaS を使ったインターネット公開

公開を実現する館が増加中

- 福山市郷土資料室様
<http://jmapps.ne.jp/fussa/>
- 浜松市楽器博物館様
<http://jmapps.ne.jp/gakkihakku/index.html>
- 鎌倉文学館様 (資料検索)
<http://jmapps.ne.jp/kmkrbgk/>
- 鎌倉文学館様 (蔵書検索)
<http://jmapps.ne.jp/kmkrbgk2/>
- 岐阜県現代陶芸美術館様
<http://jmapps.ne.jp/momca/>
- 練馬区立美術館様
http://jmapps.ne.jp/nerima_art/
- 群馬県立歴史博物館様
<http://jmapps.ne.jp/grekisi/>
- 群馬県立歴史博物館様 (キッズ)
http://jmapps.ne.jp/grekisi_ed/index.html?from
- 田淵行男記念館様
<http://jmapps.ne.jp/tbcyok/>
- 岩手県立博物館様
<http://jmapps.ne.jp/iwthkh/>

「1データ2公開」の仕組みで、B and C も簡単に実現

弊社のクラウド型収蔵品管理システム I.B.MUSEUM SaaS では、ひとつの内部(管理)用データから2種類の公開データを持つことができます。この機能を使えば、上記の東北歴史博物館様のように、1点ずつ画像・解説付きのデータベースと、網羅的な目録を両方公開することが可能です。

「すべての資料に、画像と解説を付けて公開」するのは無理でも、質と量をバランスよく両立した公開サイトを、追加料金なしで実現できますので、ぜひお試しください。

お問合せ先

sales@waseda.co.jp

詳しい内容はこちら

<http://www.waseda.co.jp/>